

令和3年度 浜松開誠館中学校・高等学校 学校評価（自己評価）

| | |
|------|---|
| 教育方針 | SDGsと愛情教育により、思いやりと笑顔が弾ける徳育の開誠館 |
| 重点目標 | ①豊かな発想と思考力を導く指導と主体的行動が広がる教育力を発揮します。 |
| | ②SDGs＝浜松開誠館の評価を得る活動をします。 |
| | ③英検＝浜松開誠館の評価を得る実績確保に努めます。 |
| | ④再エネ100宣言REAクション参加校としての実践活動に努めます。 |
| | ⑤徳育教育の浜松開誠館と外部評価の声が高まる指導力を発揮します。 |
| | ⑥愛情教育と愛校心で楽しく学ぶ学校を目指します。 |
| | ⑦サリヴァンとともに全生徒の学力向上に全力で励みます。 |
| | ⑧本校No.1の教職員を目指し、3年後の創立100周年の目標西部地区私学No.1の実現へ繋げます。 |
| | ⑨「立ち止まり挨拶」100%実現のできる指導をします。 |
| | ⑩「ICT教育」「グローバル教育」の安定・充実を強化し、結果のみえる指導をします。 |

| 評価項目 | 目標 | 具体的な活動・取り組み | 判定 | 自己評価 | 改善策 | 学校関係者評価委員による評価 | | |
|-------------|---|--|----|--|--|----------------|---------|---|
| | | | | | | 自己評価は適切か | 改善案は適切か | 評価の理由、ご意見 |
| 徳育指導 | ・K-compassの内容を改訂する。 ・7つの習慣Jの知識を深め、学んだことが日常生活で発揮できるように発展させる。 ・「チャレンジカップ」に参加する。 ・徳育成果校内発表会を開催する。 | ・カリキュラムを改訂し、SDGsに関する調べ学習の時間を確保する。 ・グループで探求課題に取り組みながら、協同性や自己肯定感を育む。 ・昨年度と同様の形でワーキンググループが、K-compassの内容を精選する。 ・担任が、その日に学んだ内容と生徒の感想を簡潔にまとめて、保護者へ向けて発行する。 ・実際に取り組んだチャレンジ内容をポートフォリオに記録し、担任へ提出させる。それを授業の冒頭で1分間発表させる。 ・プレゼンテーションや個人発表の際は、iPadに録画し、それを生徒へフィードバックする。 ・定期的に担任へフォーサイトの活用情報を発信し、その内容を担任から生徒へ向けてアナウンスする。 | B | ・「7つの習慣（高校）」、「K-compass（中学）」のプログラムにSDGsに関する調べ学習を組み込み、理解を深めることにつながった。また、1年間の学習成果としてSDGs高生発表会を実施した。コロナ禍であり、オンラインとなったが実施した。 ・高2はグループで探究課題に取り組み、FCエデュケーション主催のチャレンジカップにも挑戦した。 ・毎時間、または、単元毎に、学習内容と生徒の感想などをまとめた通信や、学年通信に学習の成果を載せたりして、保護者へ発信することができた。 ・生徒は、毎時間の学習後にチャレンジの振り返りなどを行い、ポートフォリオするとともに、時には発表を行うことで、学習内容の習慣化などにつながることができた。 ・生徒のプレゼンテーションの記録においては、「iPad」を活用することができた。 ・教員に向けてフォーサイトの活用情報を定期的に発信し、クラスで生徒への助言や指導を促 | ・生徒がフォーサイトを活用することにより自発的な行動につながられるように、クラス担任への情報発信を継続し、クラス担任が生徒へ情報発信や助言が適切に行えるように、方法の改善を継続していく。 ・徳育の学びがSDGsの活動を含めて自らの生活に活かしていくように、次年度もプログラムを改善していく。 ・コロナ禍において、グループで行うプログラムは制限があったが、その学習効果は期待できるため、方法を検討していく。 | B | B | ・生徒の自主性は高まっている。 ・コロナ禍においても頑張っていると思う。 ・フォーサイトを活用する事は、生徒と先生とのつながりができると思うので、今後も継続していただければいいと思います。 ・とても良い取り組みだと思います。我が子は家での会話は少ないのですが、時々話す内容を思い出すと、先生方の一生懸命さが伝わりました。 ・中学生については、高校生の活発な活動を見てどう感じるのかというレベルにとどめながら、SDGsというものに取り組ませたらどうだろうか。理解できないまま対応するよりも、高校生の活動を直接見てからでも教育的には間に合うのでは。 |
| 学習指導 | ・学習環境の整備を行い、全教員の授業力と質の向上を目指す。 ・ICTを活用し、新しい授業のあり方を推し進める。 ・学習到達目標を設定し、年間を通した学習体制を確立する。 | ・「授業の形」を徹底させる。 ・教員の授業参観や教科会議での議論を活発に行う。 ・教授方法を工夫(アクティブラーニングやICT機器の積極的な活用を含む)し、授業改善等に積極的に取り組むよう、研究的雰囲気高める。 | B | ・「授業の形」については、授業評価において、中学生において昨年度より悪くなった。 ・タブレットを活用した授業は、学校評価において大幅な改善があった。 | ・「授業の形」がきちんとできている中で生徒の主体的な学びが実践できるようにしたい。 ・タブレットの活用については、活用だけに止まらず、主体的な学びの実践につながるような活用をしたい。その為にも、日々の授業改善が求められる。今後も、お互いに授業見学をし、議論することを通して授業改善を継続して取り組んでゆく。 | B | B | ・タブレットの活用は効果的相互の見学が良い。 ・タブレット活用は無制限の方法があると思われる。今後期待したい。 中学生において評価が悪くなったというのは、具体的にどのようなことかわからないので評価しづらい。 ・先生方各々の考えがあると思いますが、ただプリントをやるだけの授業があるとのことを耳にしたことがあります。楽しい→向上につながるのが一番いいと思います。 ・中学生のクラスの様子を聞くと、授業に集中できない生徒がおり、さらにその生徒が他の生徒の学びのマイナスにならない対策を求めます。 |
| 進路指導 | ・生徒が主体的に進路を決定し、自己実現を図れるよう、計画的・組織的に指導、援助をする。 ・生徒の進路決定が本人や保護者の期待以上のものとなり、結果として進路実績が募集活動に貢献し得るものとなるよう各学年の教育活動を援助する。 ・情報の収集・処理・発信を適切に行う。 | ・進路指導室での進路相談体制の充実、各学年ごとの進路活動報告(学年通信など)教員指導マニュアル(手引き)の整備を行う。 ・キャリア学習の充実、ポートフォリオ・振り返りの推進、進路指導に関する活動の助言、チューター制の充実、書類作成に関する助言、中学における進路指導に関する各学年の意見聴取と検討を行う。 ・各学年・コースに応じた進路情報を発信する。 | B | ・運営の主体を学年主導にし、進路指導をする教員の主体性を発揮することができ、学年の実状に即した指導が行えた。 ・高校3年生においては高い第一希望を設定し、粘り強く最後まで諦めず努力を続け合格に結びついた生徒が目立ち、また学年教員、進路課教員とも生徒を支援することができていた。コロナ禍の中での情報提供としてClassiやロイノート、YouTube動画配信等を活用し効果的であった。 | ・校内予備校、各学年等と進路指導について連携をもっと固り、より生徒にとって有益な指導ができるよう計画をし実行していく。 ・生徒の成長を促すための振り返りを実施できるようClassiのポートフォリオ課題を活用することを進路課がリードして進める。 ・外部模試の受験に対して事前学習や事後指導、結果分析をさらに充実したものとて十分に模試を活用し学力向上、進路実現へとつなげていく。 | B | B | ・良いと思います。 ・校内予備校に通うことによって、先生だけでなく予備校の講師を巻き込んで進路を考えることができるのは、あまり積極性のない生徒にとってよい。 ・子どもの様子を見ていて、先生方がよく関わって頂いていると感じています。 ・学びのスピードを統一(同じ)にすることは大変だと思いますが、進路の個々の考え方を把握することにより、対策を早めに練る方法を考えてみてほしい。 |
| 人格指導 | ・教職員全体が連携して統一した生徒指導を実践する。 ・TPOに応じて立ち止まり挨拶などを実践できるよう指導する。 ・生徒会や専門委員の活動などを通して、生徒自ら、よりよい学校づくりを目指し、積極的に活動するよう指導する。 ・美化意識の向上を図り、校内美化を推進する。 | ・週1回課の会合を開いたり、日報を発行し、生徒指導方針の提示と遂行、徹底をはかる。 ・生活委員会による礼儀・マナー講座を実施する。 ・生徒会、生活委員会などによる挨拶運動(立ち止まり挨拶の呼びかけ)の実施。 ・SDGsを意識し、ボランティア活動への積極的な参加を促したり、コンタクトレンズのケースのリサイクル活動などを行う。 ・専門委員長への指導、掲示板の活用等を通して、委員会活動の活性化をはかる。 ・清掃方法の点検項目を明示する。 ・行事前の点検項目の確認を呼びかける。 ・用具の扱い方の指導と在庫管理を徹底する。 | B | ・週1回の会合を開き、生徒の状況を把握することができた。また、日報の発行や各学年の人品課の教員から連絡し指導方針の共有を図るようだったが、生徒の問題行動に対する各学年の対応のあり方に課題を残すこともあった。 ・生徒会や生活委員の活動はコロナの関係で制限される部分もあったが、挨拶運動など時期を見ながら行える範囲で実施できた。 ・整備は破損箇所が増えてきている現状を確認している。一つ一つ改善できるところから取り組んでいくと共に、日々の生活の中で破損がわかったときにすぐ報告をするよう呼びかけをしている。 | ・学年や人品課、部活動など関係する部署とのコミュニケーションをしっかりと図って対応していくよう声かけを行っていく。 ・生徒会や生活委員の活動は来年度も今年度同様、行える範囲でしっかりと継続して行ってきたい。 ・整備は破損箇所が増えてきている現状を確認している。一つ一つ改善できるところから取り組んでいくと共に、日々の生活の中で破損がわかったときにすぐ報告をするよう呼びかけをしている。 | A | A | ・「立ち止まり挨拶」について生徒間でばらつきがあるので、今後更なる徹底をお願いしたい。 ・生徒一人一人の状況把握は難しいとは思いますが、よく出来ていると思う。 ・コロナ禍でありながら立ち止まって挨拶をする生徒が多く見られた。 ・社会勉強につながる内容だと思います。今取り組んでいることが、この先の事にもとても役立つ内容だと思います。 ・個々の環境を把握した上での細やかな指導を期待します。 |
| 保健安全管理 | ・生徒・教職員の心身の健康への支援と不登校・いじめ等の予防と早期発見する。 ・教職員、生徒ともに防災意識の向上を図る。 | ・関係者と連携のとれた教育相談活動の実施。 ・生徒理解のための一覧表作成や検査の実施。 ・教育相談的な視点に関する参考資料・実践事例の紹介。 ・いじめアンケートなどの実施。 ・防災訓練の企画、運営。 ・防災備蓄品の購入管理、防災への啓発活動 | B | ・学年、部活動顧問との連携に時間がかかり、対応がスムーズではなかった。 ・各検査も滞りなく実施し、生徒理解のための一覧表は紙面に全体に示した。データとしても確認できるようにした。 ・いじめアンケートは2回(前期・後期)実施し、まとめ、確認等スムーズに行うことができた。 | ・早期に人品課にて状況を共有し介入の必要の有無を確認する。 ・各検査、いじめアンケートの実施など、協力を得ながらスムーズに行え、来年も継続して行っていきたい。 | B | B | ・問題の根本を捉え改善を願いたい。 ・防災の面で地域との連携を図っていただきたい。日中生徒が在校時に災害が発生した場合に、共助の必要性も生徒に伝え、また機会があれば地域と防災訓練も共有化したい。 ・いじめ・不登校の問題は大変であります。今後いろいろ対策を。 ・学年閉鎖をしないように取り組んでいる姿が見られた。(消毒、検温、黙食等) ・部活動だけがをしたとき学校で入っている保険関係の事について何も情報が無く、どういう流れで子どもが報告するべきか分からない状況がありました。うちだけではなく、他にも聞いたことがあるので、明確にして頂けたらスムーズになると思いました。 |
| 保護者等への情報発信 | ・生徒の善行を各保護者へ連絡する。 ・学年・部活動の情報発信機会を向上させる。 ・各種イベント、行事を速報性をもって発信する。 | ・ホームページを活用して、本校の教育活動(学習・部活動・行事など)を随時発信する。 ・各HR主任から、毎月1回以上「生徒の善行」を各家庭に電話やHR通信、クラッシャーなどで連絡する。 ・広報イベント告知のツールを作成し、保護者や本校に関心のある方へ配布する。 ・大会結果、行事での様子など速報性をもって発信することで生徒の様子がタイムリーで知ることができるよう努める。 | B | ・本校の教育活動については、ホームページを通じてタイムリーに発信することができた。 ・各家庭への連絡は、クラッシャーにて配信し周知を図るよう努めた。 ・広報イベントについての告知のため、ホームページでの発信のみならず、チラシなど告知ツールを作成配布した。 ・大会結果や様子について、なるべく早く伝えようとしていた。 | ・基本的には、学校についての情報発信は、それぞれの立場で努力工夫し、タイムリーかつ効果的に発信するよう努めることができた。しかし、学年や部活動において量や頻度に多少のばらつきがあった。ある程度学校全体で同一歩調にて取り組みたい。 ・「生徒の善行」については、学校全体で情報発信する機会が少なかったため、情報の収集と周知に具体的な工夫を施したい。 | B | B | ・善行を共有できるように校内に広く伝えていただきたい。 ・生徒の善行?やらせにならない様。 ・クラッシャーの配信で周知できるのは手紙だけではなく大変助かりました。 ・学校の情報発信は、とても良いと思います。部活に関しては、結果のみで、子どもたちの様子がわからず、こんなものでしょうか?学校との連携にも疑問を感じます。 ・外部に向けての発信ははとも良いHPだと思えますが、保護者向けの内容があってもいいと思います。 ・実際に配信したものを保護者がどれだけ関心をもって見ているのかの数字を公表してほしい。(開封するクリックのものは数字がわかるのか。) |
| 地域住民との連携 | ・学校と地域の有機的な連携と協働体制を構築する。 | ・地域住民の方々に学校行事(文化祭や体育大会)の案内を出し、参加をしていただくことで、本校の取り組みを知っていただく。 ・地域福祉協議会との関係を築き、地域からの要望に応え、諸活動に協力する。 | B | ・コロナ禍ではあったが、各地区の自治会長さんに式典や体育大会等の行事に出席していただき、生徒の姿を通じて、本校の取り組みを確認していただくことができた。 ・地域福祉協議会からの協力要請はなかった。 | ・来校者が固定してしまっているため、新たな方にも来校していただけるよう、オンライン等のPR方法を継続して検討する。 ・地域福祉協議会との協力関係を継続できるよう努力する。 | B | B | ・地域との連携は重要だと思う。(コロナ禍の中では大変だが) ・来校者だけでなく生徒自ら出向いて本校の活動を知ってもらう企画を実現したい。例えば高可日曜店へ出店しボランティア活動の様子を知ってもらう機会を持たらどうか。話はあったがなかなか実現していない(コロナ禍でなかなか難しかったので今後期待したい。)またアリアⅡでの地域住民に向けた演奏会等については実現も期待したい。 ・コロナ禍で仕方ないが、今後はこちらも地域住民との輪を。 ・地域の方々のご理解・ご協力は今後も大切なので続けてほしい。 ・あたたかく見守っていただきありがたいです。子どもたちが必要であれば自治会の行事に関わっても(お手伝い)いい勉強になると思っています。 ・協力関係を継続するためには、こちらから積極的に声かけをしていただきたい。 |
| グローバル推進 | ・異文化・多様性を受け入れ、地域/地球規模の課題解決方法を主体的に考察し、グローバル社会を生き抜く力を持った人材を育成する。 ・英語力到達目標を意識し、学校設定科目グローバルのカリキュラムを整備する。 ・事前/事後研修を含めた体系的な本校独自の海外研修を行い、姉妹校と密接な関係を維持する。 | ・グローバルコースの海外研修の目的や内容を再考し、ニュージーランド3ヶ月、6ヶ月の中期研修を企画する。 ・グローバル検定ルームを本館1階に設置する。ネイティブ教員による企画を実施し、生徒がより英語を話す機会を増やす。 ・学校設定科目グローバルの授業でSDGs教育を深め、地球市民として行動できる生徒を育成する。 | B | ・コロナ禍で海外研修には行けなかったものの、学校設定科目で海外とZOOMでつながりオンライン講座などを持つことができた。 ・グローバル検定ルームも多くの生徒が活用し、英検では全校内に準1級保有者が7名になり、全体の英語力の底上げができた。 ・SDGs教育では、第1回小中高全英気候サミットの開催などが評価され「令和3年度気候変動アクション環境大臣賞」や「第14回キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学大臣表彰」を受賞した | ・校内のグローバルイベントなどを開き、海外に行けなくても英語に触れる環境をさらに整えたい。 ・SDGs教育を更に学校全体に広げて、地域にも発信できるようにしたい。 ・SDGs教育では、第1回小中高全英気候サミットの開催などが評価され「令和3年度気候変動アクション環境大臣賞」や「第14回キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学大臣表彰」を受賞した | B | B | ・今後より活発に広げていってほしい。 ・海外研修に行けなかったのは残念です。もっとZOOMの活用を検討してはどうか。SDGsでの受賞は素晴らしい。 ・コロナ禍でなかなか大変な中、庶民に接する機会がある事はインプットだけでなくアウトプットできて良いと思う。 ・今の状況では難しいですね。先生方の取り組みも、子どもたちのことを考えて下さる気持ちはとても伝わります。ありがとうございます。 ・コロナ対策が新年度は切り替わると思うので、積極的な活動を期待しています。改善策が実現されますように。 |
| 放課後授業入試実績推進 | ・国公立大学および難関私立大学合格者10名以上をコンスタントに輩出できる体制を構築する。 ・マナビングの導入方法を検討する。 | ・マナビング(放課後授業)や長期休業中のSP講習会の計画・運営を行う。 ・外部進路説明会や研究会へ参加し、情報を得て進路指導を行う。 ・SP文理クラス生徒の情報共有を行い、模試分析から個々の学習計画の指導を行う。 ・夜間開放と放課後自学の指導、運営を行う。 ・進路意識向上のための行事の計画・立案を行う。 | A | ・マナビング(放課後授業)は計画通り実施。長期休業中の講習会は学校閉鎖時も教職員の協力があり可能な限り実施できた。 ・生徒・保護者説明会は中学も対象にし、欠席者にはオンラインでも視聴できるようにした。 ・コロナ禍の中、各説明会等はネットで情報を得、生徒の指導を行うことができた。 ・模試分析会で、個々の指導法について教員間で話し合い、担任間で情報共有を毎週行うことができた。 ・土曜、長期休業中の学校開放を取り入れ、可能な限り実施できた。 | ・進路意識向上のため大学研究を十分行う。 ・個々の生徒について教科担当と担任、マナビングフェロ間での話し合いを定期的に行う。 ・模試の結果をみて生徒の状態を把握し、生徒に志望校絞り込みの働きかけを行う。 ・1年生からの学習の定着をさせ、高3時点での弱点科目がないように指導する。 | A | A | ・幅広く実施しているのが良い。 ・目標が数値目標で示されているので、自己目標もまず数値実績(現地点では難しいか)で示し、それに対して評価すべきでないか。 ・マナビングの導入長期休業中の学びの場・・・頑張ってもらいたい。 ・進路指導で述べたように、塾の講師と連携できるのは生徒にとって安心材料になると思う。 ・やる気のある生徒には、とても良い機会を与えてくださっていると思います。部活動をやりながらでも良い生徒さんはいませんが、なかなか勉強したくとも思うようにできない状況もあり、やる気をなんとかしてあげたい、なんとかならない、と見守るしかなく、部活とのめりはり、両立できたらいいなと思っております。 ・今後大学の推薦合格の枠が増えることが予想されています。推薦が当たり前の時代がくる中で、学校としての対策があるの聞いてみたいですね。 |